

2018年度(平成30年度)

自己点検評価表

2019年(令和1年)7月31日

学校法人 中村学園
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

1. 学校の教育目標

【教育の基本理念】

ホスピタリティ・マインド豊かな社会人の育成

【教育の基本方針】

- (1) ホスピタリティ : お客様に喜ばれる、ホスピタリティ・マインド溢れた人材の育成
- (2) 臨機応変 : 変化に動じず、臨機応変に対応できる逞しい人材の育成
- (3) 国際感覚 : 地球規模でものごとを考えられる、国際感覚豊かで好奇心旺盛な人材の育成
- (4) 即戦力 : 実務の場で柔軟に対応し、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材の育成
- (5) 挑戦 : 充実した環境の中で、自主的に挑戦する気質をもった人材の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標

2020年国際大会を控え、日本を訪れる外国人の数は数年で急増し、観光に関わる交通・宿泊・語学といったサービス需要は高まっている。本校への入学者数は業界の追い風もあり、2年続けて増えているが、入学した学生や卒業生の受入れ企業からの評価が今後の募集にも大きく影響する。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会も更に充実させ、教育の質、学生生活、学生の将来を考え、本校に入学して良かったと感じてもらえること、また、実習や就職先において、逞しく活躍してもらうことが、私たちの使命であり、やりがいでもある。

そのためにも、まずは、職員の元気や意欲がなければ成果も望めない。職場改善アンケートでポイントを下げた項目も減らせるように働き方の改善も図る。“一体感”をテーマに、室内、室間のコミュニケーションをとり、改めてチームワークを大事にする。

具体的な目標項目は次の通りである。

- (1) 安定した学生数の確保
- (2) 企業と連携した教育課程編成と学修成果の向上
- (3) 学生満足度の向上
- (4) 学生の希望に合わせた進路決定率の向上と内定後の指導
- (5) 退学者の低減
- (6) 組織の円滑な運営と職場環境改善

3. 評価の基本方針

- (1) 本校の教職員が、本校の教育理念、目標等に照らして自らの教育活動、学校運営について目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みを評価する。
- (2) 自己評価から課題や改善点を見出し、更なる学校の質向上のための学校運営に取り組む。
- (3) 自己評価の結果は、学校関係者評価委員会に報告し、委員会からの客観的な視点から意見をいただき、良いものは計画的に取り入れ、改善を図る。

4. 評価の実施方法

- (1) 評価対象期間
2018年度 (2018年4月1日～2019年3月31日)
- (2) 実施方法
 - ① 学内から適当なメンバーを選出し、自己評価委員会を設置する。
 - ② 大部分の評価項目は「専修学校における学校評価ガイドライン」則ったものとし、さらに、観光分野に係る第三者評価システムの構築の事業活動報告書から観光分野の学校としての評価項目も加える。
 - ③ 評価は達成度とし、4段階評価とする。
4 : 達成度80%以上
3 : 達成度60%以上
2 : 達成度30%以上
1 : 達成度30%未満
 - ④ 評価項目に対する「現状」・「課題」・「今後の改善方策」・「特記事項」を記載する。
 - ⑤ 評価後は、学校ホームページで自己評価報告書として公表する。

5. 評価項目

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| (1) 教育理念・目標 | (8) 財務 |
| (2) 学校運営 | (9) 法令等の遵守 |
| (3) 教育活動 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (4) 学修成果 | (11) 国際交流 |
| (5) 学生支援 | (12) 職業実践専門課程 |
| (6) 教育環境 | (13) 観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組 |
| (7) 学生の受け入れ募集 | |

6. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	理念 目的 育成人材像	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	100	4	100	4	キャンパスライフマニュアル、 学則、入学案内書
2		教育目標、育成人材像は、専門分野に関連する業界等の 人材ニーズに向けて方向づけられているか	4	80	4	80	3	入学案内書、シラバス
3		学校の理念・目的・育成人材像・特色などが 学生・保護者等に周知されているか	4	90	4	90	3	キャンパスライフマニュアル、 シラバス、保護者会資料、 入学案内書
4	特色ある 教育活動	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	80	3	75	3	履修科目一覧、 教育課程編成委員会資料
5	将来構想	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	70	3	65	3	教育課程編成委員会資料、 学校関係者評価委員会資料

項目評価 (平均) 3.8 3.6

①現状

- 1 理念・育成人材像(教育方針)を定め、入学案内書やホームページへ掲載し、周知している。
- 2 学生の就職先となる企業からの意見、教育課程編成委員会の意見も取り入れ、毎年授業や行事の見直しに取り組んでいる。
- 3 入学案内書、ホームページ等で学生・保護者に対し周知している。
- 4 魅力ある千葉の行政機関への提案や企業実習など相互の協力連携を強くしている。
- 5 関連する会合等にも参加し、情報を収集しながら将来の構想は継続して考えている。

②課題

- ・業界の動向やニーズ、国・地域の施策等の情報をより広く集める必要がある。
- ・特色ある教育活動を研究し、将来構想について主体的に話し合う場が必要である。

③今後の改善方策

- ・行政機関、企業との連携を更に強化し、学生の成果発表の場をさらに広げる。
- ・企業からの意見を聞く他、関連する会合等にも出席して情報を集める。
- ・募集・教育・就職といった観点からも中長期の将来構想について協議する。

④特記事項

特になし

(2)学校運営

評価項目		評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠	
1	運営方針	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	90	4	90	4	重点方針
2	事業計画	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	90	4	90	3	重点方針
3	運営組織	運営組織は文書等において明確化され有効に機能しているか	4	90	4	90	3	組織図、職務・業務分掌、就業規則
4		意思決定プロセスは整備され機能しているか	4	80	4	80	3	会計・文書管理システム
5		人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	90	4	90	4	就業規則、給与規定、人事考課表
6	コンプライアンス	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	65	3	60	3	危機管理プロジェクト、消防計画、協定書、講師心得、就業規則
7	情報公開	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	90	4	80	4	情報公開資料
8	情報システム	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2	55	2	50	2	学生連絡アプリ、会計・学生管理・文書管理システム

項目評価（平均） **3.6** 3.6

①現状

- 1 旅行業・ホテル業並びに観光産業・ブライダル業界に必要な知識技能の習得、留学生への日本語・日本文化の理解、国際感覚に富んだ教養ある社会人を養成するために、予算面からも安定した運営ができるよう方針を策定している。
- 2・3 翌年度の学園組織は毎年2月に発表され、学校運営に関わる予算・提案等は、各部門上長の承認、または室長会議にて検討・審議を行い、最終は本部長が決裁する。学校の運営方針と事業計画は本部長が策定し、学園決定機関である統括会議で諮られ決定する。各室、各学科の責任者はそれぞれの目標を設定し、その目標に向けた対策をたて職務・業務分掌に則り連携して運営している。
- 4 学校の意思決定プロセスは個人の提案も大切にし、内容が良いものについては、起案者→室会議→室長会議→企画運営会議→統括会議という流れで最終決裁される。学生からの各種届出、講師からの提出物等は、各用紙に関係部署の検印欄を設け、確認している。予算支出は会計システムによる電子承認を行っている。
- 5 人事・給与に関する規定は学園総務部が担当しており、18年度には働き方についても話し合わせ、人事考課表、就業規則の一部改定が行われた。職員の採用及び人事等は中村学園の統括本部が管轄し、非常勤講師の採用については学校で管轄している。
- 6 企業と連携する授業や実習では、契約書または協定書を取り交わしている。防犯カメラを設置し、警備システム・警備員の配置による防犯対策を講じている。自然災害による停電などの非常事態の備えとして、学園の各号館を繋ぐトランシーバーを設置した。学校各号館の代表職員に消防署が実施する防火管理者講習を受講させた。
- 7 ホームページ上の情報公開については、必要な情報を閲覧しやすいように工夫し改善された。
- 8 会計・予算については、新しいシステムが導入され、学園として手順は減るようだが、全職員が慣れるまでにはしばらく時間が必要である。出勤日数及び時間を管理する表がパソコン上で自動計算されるようになり効率化が図られた。学生管理システムについては、改善に向け学園内担当者からのヒアリングが行われた。

②課題

- ・文書番号、学校印等、社外発信文書の管理についてルールが明確にされていない。
- ・情報更新の遅滞。

③今後の改善方策

- ・文書管理についてのルール及びマニュアルを作成し、学校全職員に共有する。

④特記事項

特になし

(3)教育活動

評価項目		評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠	
1	目標の 設定	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	80	4	80	3	教育課程編成委員会資料、 教育課程表、シラバス
2		教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	80	4	80	3	入学案内書、キャンパスライフマ ニュアル、シラバス、教育課程表
3	教育方法 評価等	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	70	3	70	3	教育課程編成委員会資料、 教育課程表
4		キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや 教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	70	3	65	3	教育課程編成委員会資料、 シラバス、講師会議分科会資料
5		関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、 カリキュラム作成・見直し等が行われているか	3	75	3	75	3	教育課程編成委員会資料
6		関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	75	3	70	3	協定書、講師契約書
7		授業評価の実施・評価体制はあるか	4	80	4	80	3・4	授業改善アンケート 授業報告書
8		職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	70	3	70	3	教育課程編成委員会資料
9	成績評価 単位認定等	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	75	3	70	3	キャンパスライフマニュアル、 シラバス
10	免許 資格取得の 指導体制	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での 体系的な位置づけはあるか	4	80	4	80	3	教育課程表、シラバス、重点方針
11	教員 教員組織	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる 要件を備えた教員を確保しているか	3	70	3	70	4	履歴書、就職支援サイト、求人票
12		関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を 確保するなど取組が行われているか	3	70	3	70	-	派遣依頼書、就職支援サイト、 求人票
13		関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や 教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2	55	2	50	3	研修資料
14		職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	60	3	60	3	研修資料

項目評価（平均） **3.2** 3.2

①現状

- 教育理念、教育方針に沿って、年に2回開催している教育課程編成委員会の意見を反映し、業界ニーズに合わせた教育課程を編成している。
- 修業年限に合わせた到達目標を明確に記したシラバスを作成して、学生にも説明を行っているが、今後は学科別学年到達目標を設定する。
- 学校の共通科目、学科ごとの特色ある専門科目を1年前後期、2年前後期と4つの学期を設け、段階的に学べる教育課程を編成している。
- 学生・講師からの要望を受け、就職筆記対策授業を学生の個人レベルに合わせ6クラス体制へ変更した。
- 年に2回実施される教育課程編成委員会において、学科ごとに当年の教育課程を説明し、企業や業界団体の方々からの意見を取り入れ教育課程の見直しを行い、次年度の教育課程に可能なものから反映させている。
- 各科ごとに企業と連携した実習を行っている。ホテル科、ブライダル科、テーマパーク科は企業実習を一定期間必修で教育課程に入れており、他の学科でも企業（現場）に行き説明や体験ができる内容を取り入れている。企業と取り交わしている協定書の内容が精査され整えられた。
- 授業評価と改善については、半期ごとに学生へ「授業改善アンケート」を実施し、この評価結果を授業担当者にフィードバックして、各個人授業運営の改善や工夫等に活かしている。
- 年に2回実施される教育課程編成委員会において、学科ごとに当年の教育課程を説明し、企業や業界団体の方々から意見から見直しを行い、次年度の教育課程に可能なものから反映させている。また、企業訪問をした際に卒業生の状況と合わせ企業側から求められている内容をヒアリングしている。
- 成績評価基準を明確にし、科目ごとにシラバスに記載している。進級・卒業判定については、キャンパスライフマニュアルに明記している。再評価についての基準や妥当性については継続して話し合いを進めている。
- 資格取得率は重点方針の中で学科別目標において明確な数値目標を定めている。学科コースにおける重要な検定に関しては、予め検定費用を徴収し、教育課程内に資格取得を目標とした授業を取り入れ指導している。任意受験の検定試験・資格に関しても受験を奨励している。
- 11・12 採用においては、就職支援サイト・紹介なども受けながら、業界経験豊富で求心力のある人材確保に努めている。
- 13 研修の啓蒙には努めているが、専門分野の資質向上についての研修は、十分にはない。受講した研修については報告書及び職員会議等で共有している。
- 14 指導力等に関する研修は法人全体で毎年実施している。また、専門学校各種学校協会主催の研修会にも参加している。

②課題

- ・企業実習については、職業教育の更なる充実のため重要項目と捉えおり、全ての学科での実習実施に向け引き続き取り組む。
- ・ICT教育等の教育環境の変化に対応する調査や準備が必要である。
- ・職員研修に関して研修計画に基づき参加しているが、参加する研修を精査する必要がある。

③今後の改善方策

- ・段階的に全学科の実習先確保、企業開拓を進めていく。
- ・ICT教育の現況を調べ、より分かりやすい授業へ漸進的に取り組む。
- ・研修による到達目標を予め定め、実践的かつ社会ニーズを捉えた研修・セミナーに積極的に参加し、効果を測る。
- ・再評価については、単位認定基準に合わせて教育効果を確りと出せるようにより良い方法を検討し、学内ルールの見直しも行う。

④特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	就職率	就職率の向上が図られているか	4	90	4	90	-	実態調査、就職活動実績表、校内説明会実施表
2	資格・免許の取得率	資格取得率の向上が図られているか	3	75	3	70	-	重点方針、検定結果一覧表 補講スケジュール
3	卒業生 在校生の 社会的評価	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	65	3	60	3	卒業生情報 (一部送付いただける企業のみ)
4		卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	2	55	2	50	2	
5	評価目標	教育及び実習等を委託する場合、その目的、要望事項及びそれに対する 評価項目等の依頼を明確にしているか	4	80	4	80	3	

項目評価 (平均)

3.2

3.2

①現状

- 1 学科毎の専任就職担当者を配置し、学生一人一人の希望、進度に合わせた就職指導を行っている。
企業訪問も積極的に行い、業界の最新動向やニーズの収集に努めている。就職の早期化に合わせた教育課程とすることで対応している。
- 2 重点方針の中で学科別目標において明確な数値目標を定め、それに則った教育課程編成及び授業運営をしている。
18年度にプライダル科の検定(プライダルコーディネーター技能検定)が国家検定化されたが、放課後に合格に向けた対策補講を実施。100名が受検し76名が合格した。
- 3・4 企業訪問、校内説明会、実習巡回時に卒業生に関する情報を収集している。また、企業側から活躍や異動など卒業生情報提供していただける企業が増えた。校内で行われる企業説明会にも卒業生が同行し在校生に有益な情報を伝えてくれている。
- 5 シラバスを事前に作成し目的や到達目標を明示し、協定書等を取り交わし目的を明確化している。
評価に関しても、実習手帳を用い評価項目を事前に明らかにした上で依頼を行っている。

②課題

- ・卒業生の状況把握については、引き続き課題とする。

③今後の改善方策

- ・検定についての啓蒙活動をさらに進め、資格取得に向けては、効果的な検定対策補講を行い、合格率・取得率の向上を目指す。

④特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	就職等 進路	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	90	4	90	3	キャリアサポートセンター、求人票
2	中途退学 への対応	退学率の低減が図られているか	3	70	4	80	-	スクールカウンセラー、 個人面談実施表
3	学生相談	学生相談に関する体制は整備されているか	3	75	4	80	4	スクールカウンセラー、 個人面談実施表
4		留学生に対する相談体制を整備しているか	4	90	4	90	-	スクールカウンセラー、 個人面談実施表
5	学生生活	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	85	4	80	4	学費サポート制度、 学費管理フロー
6		学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2	50	2	50	3	スクールカウンセラー
7		課外活動に対する支援体制は行われているか	4	80	4	80	4	SAM議事録、規約
8	保護者 との連携	保護者との連携体制を構築しているか	4	80	4	80	4	保護者説明会（実習・就職）
9	卒業生 社会人	卒業生への支援体制はあるか	3	60	3	60	3	キャリアサポートセンター
10		社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2	50	2	50	2	夜間部の設置
11	高校 との連携	高校・高等専修学校等との連携による キャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	80	4	80	3	高校での模擬授業・マナー指導 ガイダンス依頼書

項目評価（平均）

3.4

3.5

①現状

- キャリアサポートセンターの整備を行うことで学生が必要な情報を探しやすく、わかりやすいよう環境整備を行った。学科毎の専任就職担当者を配置し、就職指導を行っている。担当者によるキャリアデザイン授業を2年間を通して行っている。
- 担任による個人面談を実施し問題の早期発見・解決に努めていたが、結果的に退学者は1年・2年とも前年よりも多くなった。
- 4 スクールカウンセラーを配置しており、プライバシー保護を意識し学外での相談体制を整えている。担任による個人面談の実施と合わせて各教職員がそれぞれの専門に則した学生相談を行っている。
- ホスピタリティ特待生制度、修学支援制度等の各種学費サポート制度がある。また入学前、在学中の学費相談については学生/家庭に合わせた柔軟な個別対応を行っている。奨学金説明会を実施している。
- 設備としては一時的な休憩室を用意しているが、組織体制としては整備されていない。メンタルヘルスについてはスクールカウンセラーを配置しており、学校提携の医療機関がある。
- 学生組織SAMによる課外イベント活動、社会貢献活動を支援するため、学校は補助金及び担当職員を配置し積極的な活動を支援している。
- 海外研修、企業実習、就職については保護者説明会を開催し、欠席した保護者に対しては資料等を送付している。奨学金説明会に関しても、希望があれば参加していただいている。
- 卒業生への転職支援として、キャリアサポートセンターの利用、転職相談等を行っている。
- 夜間部を設置しており、学びなおしの機会創出、働きながら学ぶ環境の提供を行っている。
- 高等学校における模擬授業、マナー指導、就職指導等を行っている。また詳細はガイダンス依頼書を通じて書面でのやり取りを行っている。

②課題

- ・健康管理を担う組織体制は定めていない。
- ・社会人の受け入れは行っているが、具体的な学びなおしや社会人に特化した教育課程等は定めていない。

③今後の改善方策

- ・メンタルヘルスへの対応としてスクールカウンセラーを設置しているが、保健室等の設備・人員配置は難しいため、近隣病院の一覧等を掲示し対応する。また、急病等の対応について組織として担当やマニュアル整備を進める。
- ・各教職員の専門や担当が分かるよう座席表を作成し、相談体制をさらに強化する。

④特記事項

特になし

(6)教育環境

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	施設 設備等	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	75	3	70	4	在籍表、時間割
2		学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか	3	65	3	60	-	備蓄品管理
3	学外実習 インターン シップ等	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	80	3	75	3	シラバス、研修しおり、 条件確認書、協定書、各種保険
4	防災 安全管理	防災に対する体制を整備し、適切に運用しているか	4	80	4	80	4	災害対策・緊急地震・緊急初動マ ニュアル、備蓄品、危機管理プロ ジェクト資料
5		学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	60	2	50	-	災害対策・緊急地震・緊急初動マ ニュアル、危機管理プロジェクト 資料

項目評価（平均） 3.4 3.0

①現状

- 1 設置基準を遵守の上、教育環境としてふさわしいもの、学生が快適に過ごせるよう環境整備に取り組んでいる。
18年度は全ての学生用パソコンを新しいものに入れ替えた。
効力や匂いの問題があった2号館のエアコンを全て入れ替えた。
- 2 18年度より半期に一度、什器点検、備品確認を行っている。
大規模または技術的なメンテナンスが必要な場合には書面による現状説明および対応依頼を行い、総務部において対応している。
消防設備、エレベーター、浄化槽、防犯カメラ等は専門業者による定期的な検査を受けている。
- 3 全員が実習を実施できている学科は、ホテル科、ブライダル科、テーマパーク科のみ。
企業と条件確認書、協定書等、事前に適切な書面の取り交わしを行っている。
実習中の企業訪問等を積極的に行い、状況把握に努め、教育課程の充実につなげている。事前・事後教育にも注力している。
インターンシップや研修に際し、教育目標や実施体制について保護者説明会を開催している。
- 4 中村学園の各学校より選出された危機管理プロジェクトメンバーが主導し、各種災害に対応したマニュアルを作成・配布し、啓蒙している。法令に基づいた防災訓練を毎年実施しており、要員の配置と役割を明確にしている。非常時の備蓄品に関しては管理簿による管理を行い、定期的に点検を行っている。
- 5 安全管理については、複数の建物に分かれていることから、不審者等に対して構造上脆弱な部分がある。
学生連絡アプリを通じて学生に危機管理の啓蒙をし、教職員に対しては対処法等の周知を徹底している。
全教職員が館内の防災設備について知るため防災関連の館内ツアーを実施した。
自然災害による停電などの非常事態の備えとして、学園の各号館を繋ぐトランシーバーを設置した。
学校各号館の代表職員に消防署が実施する防火管理者講習を受講させた。

②課題

- ・盗難対策
- ・非常事態時のマニュアル作成とトラブル発生時の連絡先一覧の作成。

③今後の改善方策

- ・防犯・安全管理について、危機管理の更なる啓蒙及び自己管理を徹底する。
- ・備品、施設管理については、安全・美化・効率の側面を意識し、担当はもとより学校全体で意識を共有し管理を行う。

④特記事項

特になし

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	学生 募集 活動	高等学校等、接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	90	4	90	-	入学案内書、情報公開資料、 News Letter
2		学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4	90	4	90	4	入学願書、誓約書、募集要項
3		学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	85	4	80	4	入学案内書
4	入学選考	入学選考基準を明確化し適切に運用しているか	4	80	4	80	-	募集要項
5	学納金	経費内容に対応した妥当な学納金であるか	4	80	4	80	4	募集要項
6		入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いをおこなっているか	4	90	4	90	4	募集要項

項目評価（平均） 4.0 4.0

①現状

- 1 入学案内書、専門学校ガイドブックにおいて適切な情報提供を行っている。
また、高校ごとの卒業生情報等を高等学校に配布しており、本校入学後の活躍等を報告をしている。
- 2 募集要項に本校出願における規定を明記している。願書・誓約書等の取り交わしを行い管理している。
教育機関としての節度を保ち適正な募集活動を行っている。
- 3 教育成果として挙げられる就職実績や検定合格状況は、入学案内書及び学校のホームページでも公開している。
- 4 選考基準等は募集要項に明記されており、選考時はアドミッションポリシーを理解しているか等の確認をしている。
また、特待生選考においては選考者2名体制で行い、その後、教務室長主導の会議において決定している。
- 5 募集要項に項目ごとの必要経費を記載している。保護者説明会における説明、入学手続書類の作成を行っている。
ただし、募集要項に参考金額として記載しているその他費用が実際の金額と数万円変わってしまう学科があった。
- 6 募集要項上に辞退者における学納金返却についての記載をしている。
学納金返却に係る書面を用意し、取り交わしを行っている。

②課題

- ・18歳人口の減少、高校生の就職率向上、大学進学率上昇といった環境の中で入学者を維持していかなければならない。日本で学びたい留学生は増えている。
- ・観光、ブライダル業の仕事の魅力紹介、業界への啓蒙活動が必要である。

③今後の改善方策

- ・広報担当職員だけでなく学校教職員が、業界の魅力と自校の特色を正確に伝えられるようにする。また、高校生にとって一番身近な在校生や卒業生の協力を得る。

④特記事項

特になし

(8)財務

評価項目		評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠		
1	財務基盤		学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	80	4	80	3	資金収支計算書、貸借対照表 事業活動収支計算書
2	予算 収支計画		教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	80	4	80	-	予算書
3			予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	75	4	85	-	予算集計表
4	監査		私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	4	90	4	90	3	会計監査資料
5	財務情報 の公開		私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	70	3	70	4	情報公開資料

項目評価（平均）

3.6

3.8

①現状

- 1 学園本部と学校事業本部連携により、単年及び中長期計画を策定しており、理事会・評議員会の審議が行われる。総じて財務基盤は安定している。
- 2 具体的な目標の設定を行った後、予算策定の手順に則り単年度予算を策定している。中期計画は学園本部と連携し策定している。
- 3 年度単位で学科ごとに収入・支出の予算を策定し、月割り予算計画を立てている。四半期で予算実績管理を学校内で行っており、学園統括会議にて増減理由の確認が行われる。18年度については、単純な計上ミスがあったため予算担当者に注意指導を行った。後期より新しい会計システムが導入されたが、慣れないため時間を要したり、ミスが発生した。
- 4 適正に外部監査を受けており、結果は理事会・評議員会に報告している。
- 5 資金収支計算書および貸借対照表をホームページ上に公開している。

②課題

- ・担当者の予算策定に対する意識改革とシステムの学内研修が必要である。

③今後の改善方策

- ・必要以上支出をなくし、効果的、計画的が予算執行に努める。

④特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	法令基準等の遵守	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	90	4	90	2	学則変更届
2	個人情報保護	学校が所有する個人情報保護に関する対策がとられているか	3	60	3	60	3	各種システムの閲覧制限
3	学校評価	自己評価の実施体制を整備し、問題点の改善を行っているか	3	60	2	55	3	情報公開資料
4		自己評価結果を公開しているか	4	90	4	90	4	学校ホームページ

項目評価（平均） **3.5** 3.3

①現状

- 1 教育課程、学科名変更、学科廃止手続等について法令遵守のうえ、総務部と連携し適切な手続きを行っている。諸手続きや留意点等を教職員で共有し適正な学校運営を行っている。
- 2 学内システムのID・パスワード設定及び閲覧制限等を設けている。教職員だけでなく、非常勤講師に対しても個人情報の取り扱いについて注意喚起を行っている。メールによる個人情報の取り扱いについては、BCC活用やパスワード機能を利用している。
- 3 学校の自己評価については、18年度より学内各部署よりメンバーを選出し、チームで討議して評点を決めている。課題点として上がったものは、職員会議で取り上げ意見収集を行い、改善に向けて取り組んでいる。
- 4 前年度についての自己点検と評価を実施し、自己点検・評価表をホームページ上に公表している。

②課題

- ・自己評価の実施におけるより効果的な方法を模索し、基盤を確立していく。
- ・自己評価結果の公開に関し、より閲覧者の視点に立った公開方法を検討すべきである。

③今後の改善方策

- ・自己評価を学校運営の改善に具体的に活かしていくプロセスを短期、中長期で方策を考え、実行する。
- ・情報公開の方法についてもチームで検討を行い、ガイドライン及び多様な閲覧者視点に立った構成へと改善していく。

④特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	社会貢献 地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	90	4	90	4	キッズハッピープロジェクト、 職場体験（中学生）
2		地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	40	2	30	2	会場貸計画一覧表
3	ボランティア	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	45	2	50	3	SAM議事録

項目評価（平均）

2.7

2.7

①現状

- 1 学校施設を利用し、小学生を対象とした仕事体験会を参加費無料で年2回開催している。（キッズハッピープロジェクト）
- 2 昼間部・夜間部の二部制のため終日施設を利用していること、また、休日に関しても学校説明会や検定試験を開催しているため受け入れは行っていない。アビリンピック（全国障害者技能競技大会）へホテルサービス競技の審査員として参加しているが、18年度は競技参加者の募集にも協力することができた。外部検定機関からの依頼により会場貸出しをしている。
- 3 学生組織SAMがペットボトルのキャップ回収を継続的に行っている。
地域のお祭りへの協力依頼もあったが、お祭り自体がなくなってしまったため、18年度はペットボトルキャップ以外のボランティア活動は実施できなかった。

②課題

- ・学校周辺では昔から住んでいる方々は高齢者の割合が増え、防災や地域催事などの運営も困難になってきているため、地域と学生が協同することも検討する。

③今後の改善方策

- ・行政や地域から情報を集め、ボランティア活動への呼びかけや地域と連携できる取組みを前向きに進める。
- ・公開講座等の実施は現実的に困難なため、会場の貸出し等を行い社会への貢献活動とする。

④特記事項

特になし

(11)国際交流

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	留学生 受け入れ	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	4	90	4	90	4	重点方針
2		留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	90	4	90	4	募集要項、在籍管理表
3	留学生 指導	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	80	4	80	4	履修科目一覧 担当職員の配置
4		学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	60	3	60	3	スピーチコンテスト 卒業研究プレゼンテーション

項目評価（平均） **3.8** 3.8

①現状

- 増加する留学生に対応する独立事業部「国際部」を設置し、観光総合科及び日本語科において留学生の受け入れを行っている。重点方針を年初に定め、教育内容・就職先の拡充等を図っている。台湾国立台中科技大学のサマージョブ制度で来日する学生にホテルで働くための事前指導から企業実習先の確保、巡回まで行っている。
- 18年度も在籍管理が適正に行われている適正校*として認められている。*適正校は入学後の在留資格「留学」が原則2年間付与される。学生情報については職員間で情報の共有を図っている。
- 毎年度教育課程の見直しを行い、より効果的な教育課程としている。各種国家資格（国内旅行業務取扱管理者やレストランサービス技能検定等）にも対応した授業内容となっており、合格者を出している。また、担任制度を採用し学生状況に応じた対応を行い、意思決定手順も明確化している。非常勤講師との連携も密に行っている。
- 企業審査員を招聘したスピーチコンテストを開催し、出席者及び審査員より高い評価を受けている。卒業研究代表プレゼンテーションについても職員だけでなく、非常勤講師を審査員として学修成果の発表を行っている。

②課題

- 授業や就職活動に関する時間やルールなどのより決め細かな指導。
- 日本人学生とのコミュニケーションや交流の活性化。
- 就職活動の時期が日本人と同様の動きとなっており、就職指導の時期の見直しを検討する。

③今後の改善方策

- ホームルーム等での生活指導や個人面談等に学生の悩みやアルバイトなど状況把握に努める。
- 挨拶運動やクラブ活動などに積極的に参加させ、日本人学生との交流を促す。

④特記事項

特になし

(12)職業実践専門課程

評価項目			評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠
1	企業等と連携した教育課程の編成	教育課程編成委員会は年2回開催され、委員構成及び人数は適切であるか	4	80	4	80	-	教育課程編成委員会資料
2		外部委員からの意見が教育課程等に反映されているか	3	65	3	60	-	教育課程表、履修科目一覧、シラバス
3	企業等と連携した実習・演習等の実施	学内における実習・演習の授業は知識や技術を向上させ、段階的指導を行っているか	4	80	4	80	-	シラバス
4		実習先の指導者と担当教員との緊密な連携体制はとれているか	4	90	4	90	-	協定書、実習巡回、実習手帳
5		実習の事前教育を実施し、到達度の目標設定をしているか	4	85	4	80	-	実習手帳、シラバス
6		実習中における実習時間を管理し成績、評価、単位を適切に認定しているか	4	80	4	80	-	実習手帳
7	企業等と連携した教員に対する研修	教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修を計画的に行っているか	2	30	2	30	-	研修資料、研修規定
8		教職員に対し、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上するための研修を計画的に行っているか	2	55	2	50	-	研修資料、研修規定
9	企業等と連携した学校関係者評価の実施	学校関係者評価委員会の委員構成及び人数は適切であるか	3	75	3	75	-	学校関係者評価委員会資料
10		委員会は年間適宜開催され、会議運営は規程等に定めた目的に沿った内容となっているか	4	80	4	80	-	学校関係者評価委員会資料
11		学校関係者評価結果を公表しているか	4	90	4	90	-	情報公開資料
12		学校関係者評価結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めているか	3	70	3	60	-	学校関係者評価委員会資料、情報公開資料
13	情報の公開・提供	ホームページにおいて学校運営、教育活動等に関する情報提供内容は適切か	4	85	4	80	-	学校ホームページ
14		ホームページ、入学案内、パンフレット等の作成・配布、説明会等における説明など、恒常的に情報提供を行っているか	4	90	4	90	-	学校ホームページ、入学案内書、各種説明会資料

項目評価 (平均) **3.5** 3.5

①現状

- 8月及び12月の年2回開催している。各学科の関連業界・企業より委員を選出し運営している。学校側からも校長、教務室長をはじめとし学科長及び関係職員が参加している。
- 各専攻学科別の分科会を実施し、当校教育課程表を資料とし授業内容や運営の説明を行っている。業界ニーズや動向を伺いながら改善方や科目に対するご意見を頂戴し、教育課程編成に反映している。また、より活発な意見交換が出来るよう、議題・資料・会議運営に創意工夫した。
- 科目については学年及び実施期における到達目標をそれぞれ定め、段階的な授業を展開している。実習先で必要とされる実務技能、接客スキル等の修得を目指す。終了後は現場で習得した技術の定着及び応用学修を行っている。
- 学生派遣に係る事前打合せを行い、条件確認書及び協定書の取り交わしを行っている。実習期間中においても実習巡回及び電話等での状況確認を行い、実習手帳を利用した状況把握をしている。
- 必要最低限の実務技能、接客スキルを習得する教育課程を編成しており、事前に企業情報や心構えも教示している。実習のシラバスにおいては到達目標等示し、学生に周知している。新たな取り組みとして、実習交流会を設けた。
- 当校では実習手帳を用いた時間管理、内容把握をしており、週ごとに企業担当者による検印を行っている。実習終了時には自己評価を行ったうえで、企業評価をいただき、学校担当者と連携して単位認定をしている。
- 専門分野における実務研修においては、各教員の受講意識は徐々に高まっているが、内容はいまだ十分とは言えない。希望する研修スケジュールと学内スケジュールの調整が取れない現状がある。
- 指導力に関する研修においては、学園全体で研修を実施している。また専修学校各種学校協会の研修にも職員の年次や役職に応じたものに参加している。
- 地域及び企業委員により運営されている。計4名の委員による評価を受けており、妥当なものとなっている。
- 現状年1回(7月)に開催している。基本方針に則り実施している。
- ホームページ上に学校関係者評価として公表している。
- プロジェクトを設け、自己点検及び学校関係者評価結果について、課題と改善方を検討している。前年にご意見を頂戴した危機管理に関しては、職員会議内で防災意識を高めるための勉強会を行った。また、すぐに対応が困難な改善項目についても、段階的に対応すべく中長期的な対応を検討している。
- 情報公開はガイドラインに沿った適切な情報提供を行っている。18年度については、プロジェクトを設けて、組織的にガイドライン項目の理解を深め、見る側の視点に立った適切で見やすい情報公開となるよう全面的にリニューアルを行った。
- ホームページ、入学案内書等に関しては正確な情報を掲載している。ホームページに関しては必要に応じて随時情報更新を行っている。説明会資料等に関しては可能な限り最新情報を掲載し、情報提供に努めている。

②課題

- ・実習管理は適正に行っているが、実習先は様々であり、従事する業務も異なることから、習熟度の測り方はばらつきがある。また、一律で管理することは困難。
- ・学校関係者評価委員会の構成については、より多くの専攻分野と学校全般に関する網羅的な意見を頂戴できるよう委員数を増やすことを検討したい。
- ・現場・業界見学が主となっており、研修内容の精査が必要である。時代とともに変容するニーズや動向をいかに習得するかが課題である。

③今後の改善方策

- ・業界情報を積極的に集約し、各専攻学科に必要なとされる研修等の情報を把握し発信することで参加につなげる。また、教職員間で協力し研修に参加しやすい環境を整える。

④特記事項

特になし

(13)観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組

評価項目		評価	点数	18年 評価	18年 点数	17年	評価根拠	
1	教育体制	学科・学年に応じた教育目標を明確に設定し、学生等に周知しているか	3	65	3	60	-	シラバス、履修科目一覧
2		常勤・非常勤を問わず、教育目標設定や授業運営方針について討議・報告する機会を設けているか	3	60	3	60	-	講師会議資料
3		全科目のシラバスを作成・整備し、年間授業計画に基づいた授業運営を行っているか	4	85	4	80	-	シラバス
4		基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、課題を解決するために必要な思考力の育成に取り組んでいるか	4	80	4	80	-	履修科目一覧
5		学校行事の主旨が明確で、専攻分野に沿った特色ある行事を計画・運営を実施しているか	4	90	4	90	-	各科年間スケジュール
6	特色ある教育	観光業界・ブライダル業界に対応した語学を修得できるカリキュラムが構成されているか	3	75	3	70	-	履修科目一覧
7		接客及び対人関係に必要とされるコミュニケーション能力育成のカリキュラムが構成されているか	4	85	4	80	-	履修科目一覧、シラバス
8		企業実習教育に付随して、事前教育や事後の振り返りを行う教育機会を設けているか	4	80	4	80	-	シラバス、実習説明会資料
9		関係する業界人や卒業生を招聘したキャリア教育、キャリア指導を定期的実施しているか	4	90	4	90	-	カミングホームプラザ、就職交流会
10		業務上必要とされるPCスキルや情報モラルを教育する科目を設置しているか	4	85	4	80	-	履修科目一覧
11		外国人留学生の受入態勢を整備し、専門知識、技術、日本文化、風習などを習得する教育カリキュラムを構成しているか	4	90	4	90	-	観光総合科・日本語科履修科目一覧
12	学習成果	専攻分野に関連する資格検定の取得を奨励し、検定試験受験対策のための学内指導体制は整備されているか	4	85	4	80	-	履修科目一覧、補講スケジュール
13		学生の学業成績や功績、社会貢献等に対して、学校としての報奨制度等を用意しているか	4	90	4	90	-	表彰制度
14		産学連携を通じた教育活動が、業界の理解を深められているか	3	70	3	70	-	企業実習・行事レポート
15		学生アンケートや授業アンケート等を実施し、意見や結果を学生指導や授業改善に反映しているか	3	60	3	60	-	授業改善・学園生活アンケート

項目評価 (平均) **3.7**

3.7

①現状

- 履修科目一覧において、各科の定める到達目標を明確化しており、各期で習得すべき科目が分かるようになっている。また、各科目の詳細はシラバスにおいて、確認を取ることができる。いずれもホームページ上で公開しており、学生へ周知されている。
- 学期はじめの3月と9月に講師会議を設け、全体会の中で学校からの方針説明を行い、その後に各教室に分かれて行う分科会で討議及び確認を行っている。
- 全科目のシラバスを作成し、学生がいつでも確認できるようにホームページ上に掲載している。企業実習や行事、就職活動等の時期に合わせて計画的に授業運営を行っている。加えて、国の新制度施行を見据え、シラバスフォームに新たに実務経験の有無欄とその概略を記入する項目を追加した。
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得できる教育課程を編成している。また科目によっては、学生が主体的に創造力や発想力、表現力をトレーニングする内容もある。ただし、課題解決のための思考力育成は今後の検討課題とする。
- 全学生、学年ごと、学科ごとで専門知識や技術を深める行事、見聞を広げる行事、交流を深める行事など其々趣旨を明確にして実施している。
- 昼間部の共通科目として英語を話すことを楽しむための「Let's Speake English」を導入しているが、今年度は8クラス編成の授業を全て外国人講師へ統一し、より英語を身近に感じて学ぶことが出来るよう環境整備を行った。学科学年別の語学検定対策、業界英語の授業は継続して編成されている。
- 昼間部の共通科目として「ホスピタリティ」「自己理解（キャリアデザイン）」という科目の中で、自己分析による理解を行った上で、他者への良い印象の与え方などを身につけている。加えて、「ビジネスコミュニケーション」を導入し、社会のマナー・ルールを学び、場に応じたコミュニケーションが取れるよう演習を行っている。
- 企業実習を行うにあたっては有意義な実習とするために学校教員からの指導だけではなく、事前に企業から担当者を招聘して心構えを確りと伝えている。また、事後は実習期間中の評価が記入された手帳を振り返り、各自課題を見つけ、その後の授業に取り組んでいけるように就職関連科目を設けている。
- 企業の方や卒業生を授業や行事に招聘し、在学中の学びがどう活かされているか、会社の中でどのように働いたらステップアップできるか、キャリアプランの考え方などを直接話していただいている。
- 「パソコン」の授業は、共通科目として1年前期に設定している。社会で最低限求められる文字入力 of 正確さ・スピード、WORD・EXCELの基本操作を身につけられる内容となっている。Power Pointについては、「卒業研究」を2年前期に新たに設定し、基礎研究と併せてPower Point作成を学ぶことを目標にしている。一方、情報モラルについては、よりSNSの利用が広まり、種類も増えているが、活用と危険といった表裏の指導が十分とはいえない。
- 多様化し増加する留学生に特化した独立事業部「国際部」を設置し、観光総合科及び日本語科の2学科を有している。観光総合科では、トラベルとホテルの2専攻があり、其々専門的に学べる環境になっている。国内就職希望者も多いため、日本の文化、風習も学びの内容としている。留学生増加のニーズに対応するため、2018年度より日本語科定員数を各年15名から20名へ増やした。
- 各科担当より専攻分野及び関連分野の検定資格について説明を行っている。必修受験としている検定試験については授業内で重要性や必要性を伝えており、意欲的に取り組めるような環境を整備している。直前期の補講及び個別指導体制をとっている。2018年度は、ブライダル科関連検定が国家検定となり第1回検定が実施された。担当教員による情報収集を始め、徹底した補講により2年生はもとより1年生合格率も非常に高い結果を残すことができた。
- 2年次のホスピタリティ特待生は、能力・人格が優秀で模範となる学生を選出している。その他、卒業時に成績優秀者、皆勤者、卒業研究優秀者等表彰制度を設けている。
- 産学連携の教育活動として企業実習や分野に則した行事を行うことで業界の更なる魅力発見や理解につながっている。
- 授業改善アンケートは学期終了時に行っており、学園生活アンケートは年度終了時に行っている。アンケート結果は学内資料としてまとめられ、職員会議で共有される。結果等の改善に向けた取り組みは随時行っているが、すべてに対処出来てはいない。また、講師による授業報告書も学期終了時に行っており、講師会議においてフィードバックを行い、学校運営に活かしている。

②課題

- 各種アンケートの結果を基に授業・学校運営の改善は行っているが、アンケート結果を活用しきれていない。
- 産学連携のより一層の強化。行事・実習に限らず、授業科目にも積極的に係わっていただく仕組みを考案する。
- 教育目標は学科毎に定めているが、学年毎の明確な定めはない。

③今後の改善方策

- 各種アンケートの目的を再確認した上で、質問項目の精査、結果の活用方法等を検討する。授業改善アンケート結果に関わらず、授業見学や講師との面談機会を積極的に創出する。学園生活アンケート結果は会議等で共有し検証の場を設け、中長期的に改善計画を作成する。
- 学科内で1年、2年それぞれの教育目標を設定し、講師会議で非常勤講師を含め、到達目標の説明を行い協働して達成を目指す。

④特記事項

特になし

2018年度自己点検 総合評価（平均）

3.5

3.4

7. 総評

昨年度よりプロジェクトメンバーによる自己点検を行っており、2年目を迎えた。評価項目は昨年と同様に職業実践専門課程に関する評価や分野の特徴化に向けた評価を含む13項目について行った。今回の自己点検評価は4点満点中「3.5」という結果となり、前年度より「0.1」ポイントあがっている。組織だった学校評価に対する取り組みの結果といえる。

教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会ともにより充実した内容になっているが、委員意見をより一層教育課程や学校運営に反映できるよう活用方法の効果的な利用を検討していく。また、研修については、業界動向やスキルをアップに欠かせないものとなっており、今後も積極的に参加し学内で共有していく。全体的な学校評価としては到達点をより明確にし、自己点検と学校関係者評価の評価項目の達成につなげていきたい。